

葉いもち、紋枯病が発生しています!! 遅れずに適期に防除しましょう

葉いもちが発生しています。また、6月19日、20日にも広範囲に葉いもちの感染があったことから、今後各地で発生が見られる見込みです。

近年発生が多い紋枯病も平年よりやや早い6月下旬に発生を確認しました。

7月、8月の気温は低く、雨が多い予想で、いもち病、紋枯病が発生しやすい気象が続く見込みです。

圃場を巡回し、発生を確認したら、適期に薬剤防除を行いましょう。

防除対策

1. 葉いもち…初発生を見たら、直ちに防除する。

- (1) 治療・予防効果のある薬剤を散布する。
- (2) 散布後も上位葉で新たな病斑が見られたら、散布10日後に追加防除する。
- (3) 苗箱処理剤や予防粒剤を施用した圃場では、防除の必要はないが、発生が見られたら防除する。
- (4) 葉いもち多発圃場では、穂肥を控える。

主な防除薬剤

ブラシン粉剤、ブラシンフロアブル
イモチエース粒剤、オリブライト1キロ粒剤



2. 紋枯病…粉剤液剤では穂ばらみ期、粒剤では7月上旬が防除適期

- (1) 出穂の遅い圃場でも発病が多い圃場は7月下旬に防除する。
- (2) 穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上の圃場は防除を行う。
- (3) 粒剤の防除時期は、薬剤によって異なるので注意する。
- (4) 薬剤が株元の病斑にかかるように散布する。

主な防除薬剤

バリダシン粉剤DL、バリダシン液剤5
リンバー粒剤、イモチエース粒剤
モンカット粒剤、モンガリット1キロ粒剤



☆最新の農薬登録情報(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt1lp301.do>)を確認して下さい。